

議事要旨	
H23 年度 第 1 回千葉県移動性向上プロジェクト委員会	
開催日時：平成 23 年 12 月 14 日 14:30～17:00	
開催場所：千葉市中央コミュニティセンター 8 階 海鷗	
委員会出席者：千葉工業大学工学部 教授 赤羽 弘和（委員長） 千葉県警察本部 交通部交通総務課 藤井 等（代理出席） 千葉県警察本部 交通部交通規制課 高木 善行（代理出席） 社団法人千葉県商工会議所連合会 事務局長 中山 雄二 社団法人千葉県トラック協会 交付金事業部長 鶴巻 成男 社団法人千葉県バス協会 専務理事 花崎 幸一 株式会社 千葉日報社 業務局長 鎗田 光明 社団法人千葉県観光物産協会 児安 伸之（代理出席） 千葉県 県土整備部 道路計画課 吉田 行伸（代理出席） 千葉県 県土整備部 道路整備課長 知地 顕男 千葉市 建設局 道路部長 山田 雄久 千葉市 消防局 警防部長 佐藤 寿高 首都国道事務所 杉崎 光義 千葉国道事務所長 遠藤 和重（敬称略）	
委員長	（1）過年度までの検討と今年度の検討 ・PDCA サイクルの過程で移動性阻害箇所の見直しを行う際に、第一に基本方針を明確化し、それに基づいて選定基準の加除や優先順位の設定法を検討する必要がある。
委員長	（2）移動性阻害箇所の現在の交通状況・対策実施状況 ・損失時間については、道路整備の改善効果が的確に表示されていないデータがあり、事前事後比較の基礎のひとつとなるプローブデータの特性（通年、上り下り別、詳細区間別）を活かす工夫が必要である。
委員 A	・損失時間の変化については、大型車交通が増加するなど車種構成が変化している場合も考えられるため、そのような視点からの分析も必要である。
委員長	（3）新たな移動性阻害箇所の選定方針 ・一般車両が渋滞する箇所と緊急車両が渋滞の影響を受ける箇所とは、一般車両の避讓可能性が道路幅員などにも依存するため、必ずしも一致しない。したがって、緊急車両のプローブ調査を実施して走行実態を把握する方法も有効である。
委員 B	・緊急車両を運行している側では、渋滞などが問題となる具体的な箇所は把握していないので、それを示す客観的なデータは重要と考えられる。
委員 C	・圏央道が開通すると交通需要が増加し、それと連絡する一般道の新たな渋滞が懸念される場所である。特に、観光交通需要の増加を考慮する必要がある。
委員長	・観光交通により交通渋滞が発生している箇所については、観光目的以外の道路利用者がその渋滞を回避できる代替路の有無も、視点の一つである。
事務局	（4）今後のスケジュール ・本日頂いた貴重な意見を参考にさせていただき、事務局から新たな指標に関するデータを提示し、次回の委員会で再度議論させて頂きたいと考えている。